

クレーム発生

底の仕上げ日を確認

2週間過ぎている

感度を確認

制御器が無目内で、ビス止めされているか確認。(止まってなければ止めるか、制御器とサッシ間に線でアースを取る。)

F型コネクタ加工状態を確認。(アルミリング全体がつぶれていたり、シールド線と芯線がショート、又は芯線が短かったら再加工する。)

正常な方(内・外)の制御器と継ぎ換えてみる。

2週間以内

感度を確認

制御器が無目内で、ビス止めされているか確認。(止まってなければ止めるか、制御器とサッシ間に線でアースを取る。)

F型コネクタ加工状態を確認。(アルミリング全体がつぶれていたり、シールド線と芯線がショート、又は芯線が短かったら再加工する。)

正常な方(内・外)の制御器と継ぎ換えてみる。

- ※ 標準抵抗値データ(アナログテスターにて)
1. 芯線(+)-(-)シールド線(コネクタ)10KΩ
 2. 芯線(+)-(-)サッシ 10K~13KΩ
 3. サッシ(+)-(-)シールド線(コネクタ)20Ω~3KΩ

制御器取替え

制御器の不良

標準抵抗値範囲内

制御器から同軸ケーブルを外し、アナログテスターで抵抗値を測定してください。(線間とサッシ間) ※ 標準抵抗値参照

症状が入れ換った

モルタルが乾いていないか、深埋めの場合は、高感度制御器に取り替える。電源が不安定ならば安定化電源に換える。金属の影響の場合は、アンテナ板より150mm以上離れるよう撤去する。

モルタルが乾いていない・電源100Vが不安定・金属の影響・深埋めみのいずれか。

標準抵抗値範囲内

制御器から同軸ケーブルを外し、アナログテスターで抵抗値を測定してください。(線間とサッシ間) ※ 標準抵抗値参照

変わらず同じ症状

アンテナ板を再埋設

同軸ケーブルの損傷(ショート)

標準抵抗より低い (10Ω以下)

制御器から同軸ケーブルを外し、アナログテスターで抵抗値を測定してください。(線間とサッシ間) ※ 標準抵抗値参照

変わらず同じ症状

高感度制御器に換える。それでも支障をきたす場合や、断線の際は埋め直しとなります。

空練りモルタル等で、アンテナ板とモルタルの密着が悪い。又、無限大(∞)の場合は断線か、モルタルがアンテナ板の上、又は下の鉄板に全く付いていない。

標準抵抗より高い 又は、無限大(∞)

標準抵抗より高い 又は、無限大(∞)

制御器から同軸ケーブルを外し、アナログテスターで抵抗値を測定してください。(線間とサッシ間) ※ 標準抵抗値参照

症状が入れ換った

電源が不安定ならば安定化電源に換える。金属の影響の場合は、アンテナ板より150mm以上離れる様、撤去する。深埋めの場合は、高感度制御器に換えてみて、それでも支障が出る時は埋め直す。

電源100Vが不安定・金属の影響・深埋めみのいずれか。

標準抵抗値範囲内

制御器から同軸ケーブルを外し、アナログテスターで抵抗値を測定してください。(線間とサッシ間) ※ 標準抵抗値参照

症状が入れ換った

アンテナ板を再埋設

同軸ケーブルの損傷(ショート)

標準抵抗より低い (10Ω以下)

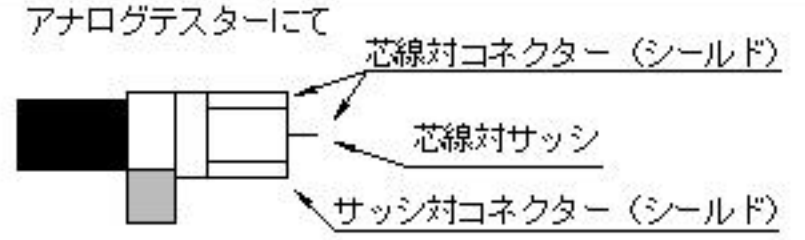
制御器取替え

制御器の不良

標準抵抗値範囲内

コネクタ加工

抵抗値測定



リリーススイッチ
・クレーム対処の手引き
株式会社 ツーデン